

# 持続可能な社会のための教育の推進

～SDGs をテーマにした探究活動を通して～

福山市立久松台小学校

## 1. はじめに

本校では、「自分で決めて、やってみて、考える～自律を促す学びの創造～」を研究テーマとしている。子どもたちが目の前の事象に留まらず社会全体に目を向け、その中から問題を発見し、自分たちにできることを考え解決していくことを目的とし、総合的な学習の時間を中心に SDGs 理解教育の様々な取組を行っている。また、総合的な学習の時間だけでなく、各教科の学習、特別活動や行事等を通して、自ら課題を発見し、解決に向かい、その過程から学びを見出す力を養おうと、各学年、実態に合わせたテーマのもと取り組んでいる。

〈ESD で目指すことをもとに、本校で付けたい力〉

### ①主体的に学ぶ力（進んで参加する態度）

…環境、平和、福祉等について関心を持ち、課題を見つけて解決に向けて取り組む力。

### ②表現力（コミュニケーションを行う力）

…学習したことや考えたことを創意工夫しながら表現する力。

### ③他者とつながる力（コミュニケーションを行う力、他者と協力する力、多面的・総合的に考える力）

…人と関わることを通して相手の良さを学び、考えを深めたり新たな考えを創造したりする力。

### ④社会と自然を大切にする心（つながりを尊重する態度）

…環境、平和、福祉等と自分との関わりを考え、地域やお世話になった人と関わろうとする態度。

## 2. 今年度の取組

### (1) 第3学年

3年生は初めて SDGs を学習するので、「SDGs とは何か」ということから学んだ。その中で児童が興味をもったテーマを選び、自分たちにできることを考え、実践した。例えば、「7. エネルギーをみんなに そしてクリーンに」を選んだ児童のグループでは、限りある資源を大切に使うと、節電や節水を呼びかけた。このように、考えたことや実践したことをグループごとにまとめ、クラスで発表し広めた。これらの活動を通して、社会のために自分たちにもできることがたくさんあると知り、実践していきたいという思いをもった。

また地域とのつながりを深めるため、学区の共働センターの方や地域の塗装業者の方に協力してもらい、学校にある遊具のペンキ塗りを一緒に行った。事前に、「仕事」について学習したり、共働センターへ出向きどのようなことを行っている事業所なのか授業を行ってもらったりした。初めて塗装職人の技を間近で見る児童も多く、一緒に活動を行うことで、「仕事」を間近で感じる事ができた。この活動で、社会とつながることの難しさや大切さ、事業所の方や仲間と協力することの楽しさを学んだ。



## (2) 第4学年

SDGsの「3. すべての人に健康と福祉を」をテーマに学習を進めた。福祉の中でも、児童、高齢者、障がい者の3つに焦点を絞り、グループに分かれて自分たちにできることを考えて実践を行った。児童福祉では、児童養護施設の設備等の資金が足りていないことを知り、校内で募金活動を行った。また遊び道具に困らないように、手作りおもちゃを渡した。高齢者福祉では、近年地域での人同士のつながりが薄れ高齢者がさびしく思っていることを知り、あいさつビンゴを計画した。校内で楽しみながら行うことができ、地域で会話が增えるきっかけをつくることができた。障がい者福祉では聾者の方に目を向けインタビューを行ったり、簡単なあいさつの手話を覚えたりした。その中で、今後聾者の方と関わるときに気をつけたいことなどをまとめて、全校朝会で発表した。

これらの学習を通して、生活に少し不自由を感じ、福祉を必要としている人は、自分たちの身近なところにたくさんいることが分かった。これからも周りに目を向け、自分たちにできることは率先してやりたいという思いをもった。



みんなであいさつをしよう!!

4年 萬れい福祉チーム

【目的】  
最近地いきの人とのコミュニケーションが  
入っています。そこで、地いきの人の存在  
がわかるために地いきの人にあいさつをする取  
組を行います。

【やり方】  
各クラスに表をくばるので、そこに目標など  
を書いてください。そしてクラスでその表に何  
回あいさつをしたかも書いてください。  
みなさん、出会った地いきの人たちにははずか  
しがらずにあいさつしてください。  
△家族は同級に入りません。

期間 1月27日(月)～1月31日(金)

あいさつをすれば少なくとも地いきのコミュ  
ニケーションがうまえます。出会った地いき  
の人でできるだけあいさつをしていきましょう。  
そしてもっと明るく楽しくなかのよい久松台学  
校にしましょう。

## (3) 第5学年

年間を通して米作りを行った。水の管理や脱穀の仕方、すずめから稲作を守る方法など、稲作に関わる作業を一から調べたり、専門の方に聞いたり、自分たちで考えながら行った。今後は、自分たちが作ったお米を炊いて食べる活動も行う。長い間稲作に関わることで、自然との共生や仲間との協力、お米や作り手への感謝など、たくさんの学びがあった。

また、児童がSDGsのテーマから興味のあるものを選び、グループに分かれて学習を進めていった。食品ロスグループでは、給食室で出た野菜の皮などの廃棄物を土と混ぜ合わせ、肥料に変える取組を行った。今後、この肥料を使って野菜を育てる予定である。また学校を元気にするために、学校のキャラクター作りを行った。全校にイラストを募集し、その中からテーマに沿ったものを選び、投票を行い決定した。おもちゃ作りのグループでは、みんなに楽しんでもらおうと学校での遊び道具を増やす活動を行った。普段は捨てるような廃材を使っておもちゃを作り、全校に呼びかけ遊ぶ機会をもった。高学年として、自分たちだけでなく周りの人も楽しめるように考えて実践に移すことができた。これからも学んだことを活かして、よりよい学校生活を送っていきたいという思いをもった。

久松台小学校の校章をもとに作りました。  
「みんなの笑顔がピカピカに輝くように」  
という願いを込めて、  
「ピカ」  
と名付けました。



#### (4) 第6学年

「持続可能」という観点から、今年福山市で行われる第20回世界バラ会議を多くの人に広めようと活動を行った。学校のばら園のお世話をしてくださっているばら会の方や、教育委員会、市役所などに電話をして、バラ会議の目的や歴史を聞いた。自分たちで調べたことや聞いたことを模造紙にまとめ、クラスで発表した。自分たちの故郷で大きな世界大会が開かれるということもあり、積極的に調べ、広めようとする姿が見られ、故郷への愛着がさらに湧いてきた。

また、「これからの自分を見つめて」という単元においては、今年で卒業を迎えることから、学校の清掃活動も行っている。学校への感謝の気持ちを伝えるため、自分たちにできることを考えて計画し、実行に移した。普段の掃除時間では掃除しない場所を見つけ、「学校へ恩返しをしたい」など、感謝の気持ちを持ちながら行った。この活動を通して、今まで自分たちの成長にたくさんの人が関わっていたことなどを、改めて実感し、感謝の思いをもった。



### 3. 来年度へ向けて

3～6年生の総合的な学習の時間におけるSDGsの学習を継続していく。来年度も、身近な問題から探究活動をスタートし、子どもたちの「やってみたい」という思いを大切にしたい活動を行っていききたい。3～6年生の4年間を通して、振り返りながら視野をだんだん広げ、様々な情報を活用して学習していけるようにしたい。そのため、3年生と4年生は、町探検やインタビューを通して直接人々や事象と関わりをもつことを重視した活動を行いたい。5年生と6年生は、インターネットなどを活用しながら、自分たちで見つけた課題をもとに探究していく。活動を通して得た気づきが、普段の生活の中にも生かされるようにしていきたい。